

1 設置の目的

平成22年から26年の5年間（第1フェーズ）でのさまざまな在宅医療の推進・普及の取組みにより、一定の成果があげられたものの、急速な高齢化に伴う在宅医療ニーズの増加に対応できるよう、更なる在宅医療推進体制を構築していくために、対策の具体的な議論を行う場とするもの。

2 WG構成団体

柏市医師会、柏市訪問看護ステーション連絡会、東京大学高齢社会総合研究機構、柏市

第2回 在宅医療第2フェーズ・ワーキンググループ

- ◆日時：1月28日（月）午後7時から9時まで
- ◆会場：柏地域医療連携センター 2階会議室
- ◆議題：
 - (1) 在宅医療第2フェーズの取り組みの発信について
⇒日本在宅医療連合学会大会への演題登録
 - (2) 病院と在宅との連携強化について
⇒「地域包括ケアシステム研修会」について
 - (3) 訪問看護ステーションの基盤強化について
⇒平成30年度訪問看護ステーション調査（管理職及び看護職）の結果等を踏まえた基盤強化の継続

(2)病院と在宅との連携強化：地域包括ケアシステム研修会

今年度の実施について

1. 目的

- ・ 病院側に在宅医療における訪問診療や訪問看護，介護サービス等の実際を知ってもらうことで，在宅について具体的なイメージを持つことができる
- ・ 実際に入院している患者の退院に向けて在宅チームとの連携の促進を図る

2. 内容

グループワーク（ワールドカフェ方式）

※出張版「顔の見える関係会議」をイメージ

テーマ：「スムーズな在宅への移行と急変時等の病院との連携」

～どのような情報があったらよいでしょうか？～

3. 研修参加者

【病院側】 医師・看護師・MSW 等

【在宅側】 医師（在宅プライマリケア委員会）・訪問看護師・ケアマネジャー 等

4. ご協力いただいた病院

今年度は試行的に実施

- ・ おおたかの森病院 ：平成30年12月21日（金）
- ・ 柏市立柏病院 ：平成31年 2月18日（月）

おおたかの森病院 実施状況報告

(1) 実施日時

平成30年12月21日（金） 19:00～20:00 おおたかの森病院にて

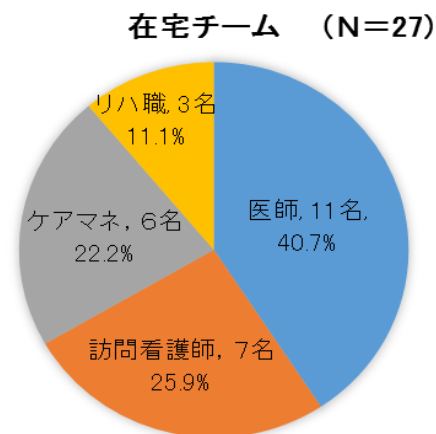
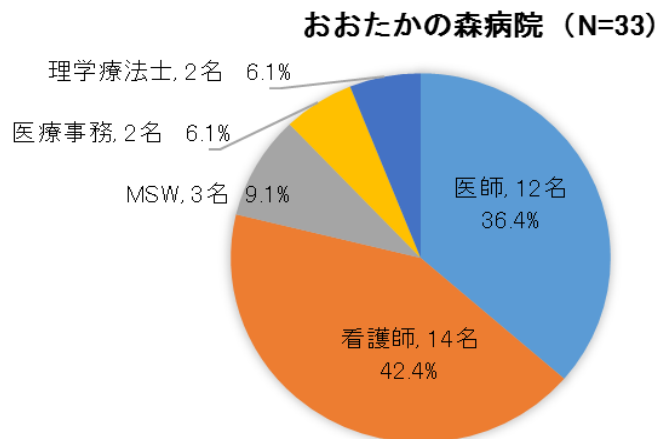
(2) グループの設定

- ・3領域グループ（心不全，がん終末期，リハビリ）（2G×3＝計6G）

※研修対象者としてリハビリ専門職を追加

(3) 参加者

計60名 （病院チーム：33名 在宅チーム：27名）



(4) アンケート結果より

①病院と在宅との連携強化のために必要な取組みについて

病院チーム	在宅チーム
・顔の見える連携体制づくり（医師） ・在宅で何がどこまでできるのかを知る（医師） ・入院中から在宅チームと会議を行う（看護師） ・看護サマリーの内容の充実を図る（看護師） ・院内に退院支援チームを発足させる（MSW） ・情報共有の方法を工夫する（医療事務） ・情報共有をするシステムづくり（PT） ・退院時共同指導等直接話し合う機会を作る（PT）	・お互いが顔を合わせ、何をしているのか、何ができるのかを伝え、知ることが必要（医師） ・病院と在宅の医師が意見交換する場づくり（医師） ・退院時共同指導等、お互いに相談し合う頻度を増やす（訪問看護師） ・院内カンファレンスやICへの積極的な参加（ケアマネ） ・在宅から病院へのリハ職の申し送りルールづくり（PT）

②研修内容への意見・感想（病院参加者より：一部抜粋）

- ・相互理解に大変役立つ研修だった（医師）
- ・在宅の環境でできることをもっと知りたい（医師）
- ・顔が見えるコミュニケーションが必要であり、今後もこのような研修を希望する（医師）
- ・在宅医療について初めて知ることもあり勉強になった（看護師）
- ・在宅側にとって必要な情報を知ることができたため今後の看護サマリー作成に活かしたい（看護師）
- ・グループワークの時間が短かったので、伝えたいことを話さなかった（看護師）
- ・いろいろな視点で考えることができて良かった（MSW）
- ・それぞれの立場で患者さんにとって必要な情報は何かということを共有できたので良かった（PT）

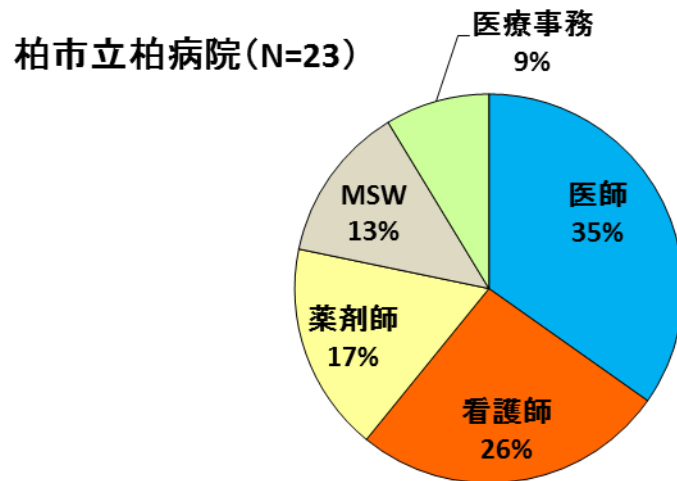
柏市立柏病院 実施状況報告

(1) 実施日時

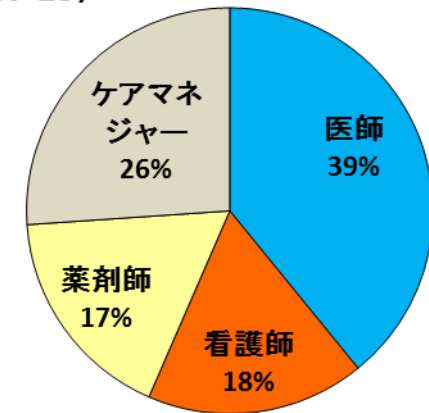
平成31年2月18日（月）19:00～20:30 柏市立柏病院にて

(2) 参加者：46名

- ①病院チーム：23名（医師8名，看護師6名，薬剤師4名，MSW3名，事務2名）
- ②在宅チーム：23名（医師9名，看護師4名，薬剤師4名，ケアマネジャー6名）



在宅チーム(N=23)



(4) アンケート結果より

①病院と在宅との連携強化のために必要な取組みについて

病院チーム	在宅チーム
・直接連絡(書面以外)が意外と重要である(医師) ・早い段階からこまめな情報共有が必要(医師) ・研修を通じて関係づくりがしたい(看護師) ・顔を合わせた意見交換は定期的に必要(看護師) ・お薬手帳を活用し薬の管理方法を共有(薬剤師) ・今回のような小規模な会議が「つながる連携」になる(MSW) ・職種に関係なく連携が必要である(医療事務)	・お互いの必要な情報を理解することが大切(医師) ・急変時の入院依頼の目的と診療科を明確にすると、病院側が受け入れやすいことを再認識した(医師) ・連携と連絡、相談窓口がわかることが大切(訪問看護師) ・垣根を越えること、そのためには顔の見える会議やカンファレンスを必要とすると思う(薬剤師) ・連携シートやカシワニネットの活用(ケアマネ)

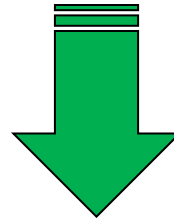
②研修内容への意見・感想(病院参加者より：一部抜粋)

- ・在宅の先生方、訪問看護、薬局、ケアマネさんたちの意見や思い、取組みに対する熱意と本音を聞くことができて有意義だった(医師)
- ・もっと若い先生も参加したほうがよいと思う(医師)
- ・実際に顔を見て話し合う情報交換は、思いがお互いに伝わり大変よかったと思う(看護師)
- ・在宅でどのようなことに困っているかよくわかった。もっと細やかな情報提供を行いたい(看護師)
- ・在宅スタッフも病院スタッフも願っていることは大差ない。スムーズに連携できるとよい(看護師)
- ・退院時共同指導の具体的な流れを知りたい。まずは同職種での連携から始めたい(薬剤師)
- ・在宅の方々から求められる情報(意思決定、認知症等)を意識して情報交換をしたい(MSW)

平成30年度の試行的な取組みの評価

【★取組みの成果★】

- ・ 病院と在宅のそれぞれにとって必要な情報を共有できた
- ・ お互いの役割やできること等について相互理解する機会になった
- ・ 病院と在宅との連携の重要性について認識を深めることができた
- ・ 今後の円滑な連携の推進に向けて、取り組むべき課題が明らかになった



病院と在宅との「顔が見えるコミュニケーションの場」づくり



試行的に実施した「**地域包括ケアシステム研修会（グループワーク形式）**」を
次年度以降、市内の各病院にて実施する方向で検討予定